



信州・青木村ふるさと景観100選

霧氷(リフレッシュパークあおき)

AOKI 青木村 議会だより

第52号

平成26年2月1日発行



発行／青木村議会
編集／議会報編集委員会
印刷／(株)アオヤギ印刷

青木村議会へアクセス E-mail: gikai@vill.aoki.nagano.jp



青木村消防出初式



おたや祭

主な
記事

青木村議会だより
第52号

平成25年第4回定例会	2～3
一般質問	4～9
平成25年第2回臨時会	10
議会の動き	10～11
住民の声	12
議会日誌	12

平成二十五年

第四回定例会

平成二十五年第四回定例会が、去る十二月三日に招集され九日までの会期で行われました。議案は、寄附採納、条例の制定・改正三件、上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部放棄、補正予算三件で、慎重審議の結果、原案のとおり可決されました。また、議員発議により、「特定秘密保護法案に対する慎重な対応を求める意見書」が提出され全員賛成にて可決されました。

一般質問では、六人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ

(要旨)

十二月定例会を招集いたしましたところ、全議員の皆様のご出席をいただき誠にありがとうございます。

十二月下旬からスタートします平成二十六年度予算編成にあたっての村の基本的な考え方についてでございますが、二十六年度は、始動して三年目となる第五次青木村長期振興計画の『次代に残そう自然豊かな住みよい村を』の実現のため、前期基本計画の六つの大綱に沿って取り組み、村の持続可能な発展と村民福祉の向上に資する取り組みを積極的に行ってまいりたいと考えております。これらを実現するために村が真に担うべき業務を「選択」し、財源や人材をこれらに「集中」していくことで、限られた財源を有効かつ合理的に活用し、より質の高

い行政サービスが提供できる村政の実現を目指します。また、創意と工夫で最大の効果が得られるようあらゆる英知を結集して取り組み、全ての事業について、スクラップアンドビルドを行い、限られた財源のもと村民サービスの維持、向上を図るために事業の選択と集中の一層の推進をして参ります。

また、国・県等の財源確保が確実な事業を優先させると共に、税の公平性の観点から、収納率の向上に向け、より一層の取り組みを強化します。

次に、国・県等の動向の把握と対応について、今後、変化が予想されるため、関係省庁や県等の情報収集に努め、適切な対応を図ります。特に消費税増税や、それに併せた経済対策が現在のところ情報が不確定な状況

でありますことから、状況の変化に対して迅速かつ柔軟に対応することといたします。いずれにいたしましても、青木村は元より厳しい財政状況の中にありますが、村民の皆さんの声を反映し、また将来を見据えた予算編成をしてまいります。

さて、九月十六日台風十八号が当村を通過し、連続雨量百四十ミリ最大時間雨量二十九ミリと、三年ぶりの大雨となりました。幸い人的な被害はなかったものの、道路・河川・農地・山林など復旧工事が必要な個所が多く発生しました。今議会でこの復旧のための補正予算をお願いしているところであります。

十一月十日には『国道一四三号青木峠トンネル建設促進村民会議』を設立していただきました。今後は、議会、村民会議、行政と三者スクラムを組んで、その促進に取り組んでまいります。

十一月十九日には、村内で交通死亡事故ゼロ三千日を達成。国道一路線、県道三路線を有する自治体としては、偉業とのことで、上田交通安全協会青木支部に対し、県知事及び上田警察署長から表彰状をいただきました。

た。私からも関係の皆さんの日常活動に感謝申し上げます。本議会へ提案いたしました八議案について各々ご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。開会にあたってのごあいさつとさせていただきます。



議 案

議案第一号

寄附採納について

次の方から寄附の申し出があり、ありがたく採納させていただきますことになりました。

一、当郷ゴルフクラブ

会長 山本健夫氏

四万五千元

一般寄附金として

議案第二号

青木村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について

議案第三号

青木村介護保険条例の一部を改正する条例について

両案件とも、地方税法の一部を改正する法律により、地方税に係る延滞金の割合の特例の見直しがされることに伴い、村税に準じて割合を定めている税外収入の滞納に係る延滞金についても見直しが必要となったため、所要の改正をするものです。

議案第四号

青木村子ども・子育て会議条例について

子ども・子育て支援を総合

的に推進することを目的とした国の制度が開始されることに伴い、村の子ども・子育て支援に関する施策の推進に關し会議を組織するため、新たに条例を制定するものです。

議案第五号

上田地域広域連合ふるさと基金に係る権利の一部を放棄することについて

上田地域広域連合ふるさと基金に対する村出資総額七千四百六十四万三千円のうち、佐久総合病院佐久医療センター施設等整備事業及び信州上田医療センターがん放射線治療装置整備事業に対する財政支援のため、千八百三十四万七千円の権利を放棄するものです。

議案第六号

平成二十五年青木村一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ九千二百七十七万六千円を追加し総額を二十六億四千四百五十六万六千円とするものです。歳入の主なもの、地方交付税三千二百六万三千円、災害復旧費国庫負担金四百六十九万七千円、災害復旧事業債二千六百九十万円などで、歳出では

人事異動に伴う人件費の増減と、入奈良本防災倉庫建設費八百四十万円、九月十六日に発生した台風十八号災害に対する災害復旧費四千四百七十七万七千円、小中学校パソコン教室、校務用パソコン入替工事費三千二百六十二万円などが主なもの。

議案第七号

平成二十五年青木村国民健康保険特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ三千七百九十四万六千円を追加し、総額を五億五千五百三十三万六千円とするもので、歳入は療養給付費負担金と療養給付費交付金、繰越金の増と、前期高齢者交付金の減、歳出では一般被保険者高額療養費九百万円、一般被保険者高額療養費六百二十九万四千円、後期高齢者支援金千五百七十九万四千円、償還金千三百三十六万二千円の増、退職被保険者等療養給付費九百九十九万円の減などが主なもの。

議案第八号

平成二十五年青木村簡易水道特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ三百三十三万二千円を追加し、総額を一億千七百三十五万五千円とするもので、歳入は繰越金のみ、歳出は人事異動に伴うものと施設管理費の修繕料が主なもの。

発 議

発議第一号

特定秘密保護法案に対する慎重な対応を求める意見書について

特定秘密保護法案に対する慎重な対応を求める意見書を関係機関へ提出することについて全員賛成にて可決されました。



青木村ふるさと公園(仮称)整備予定地視察(平成 25 年 10 月 30 日)

第四回青木村 議会定例会

一般質問

堀内 富治議員

- 一、平成二十六年度予算編成について
- 二、災害予防災の村づくりについて
- 三、高齢者福祉について

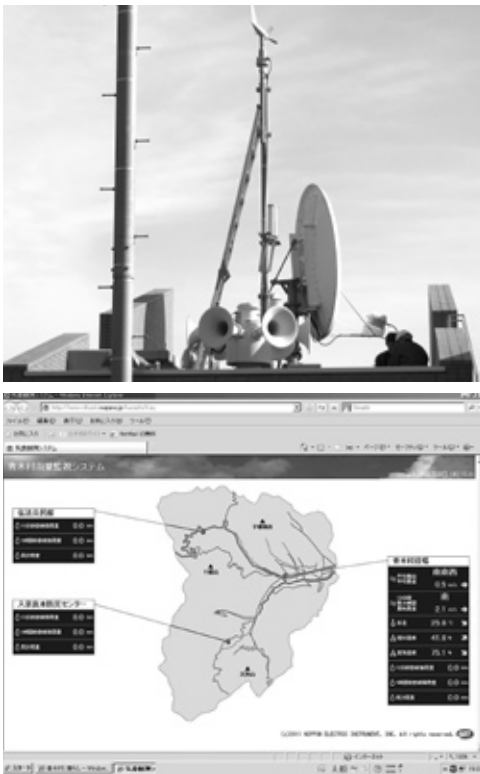
一、平成二十六年度予算編成について

(問) 予算編成の考え方は

村長答弁

村の長期計画や、公約を実現するため、細心かつ、大胆

精度の高い雨量計



に、更に教育・福祉・子育て等、弱者と言われる皆さんに気配りをし、中長期的な予算編成をしたい。

(問) 健全財政が基本だ。財源の確保と、具体的なすすめ方は

村長答弁

国からの交付税や、村税の確保に努め、観光関係等の組織を通じて観光客の来村や、ふるさと納税をすすめたい。

大きな投資も考えなければならぬが、国や県の支援のある事業を優先したい。

(問) 人件費、職員体制、職員の教育指導について

村長答弁

職員は決して多くない。本年は二人採用したい。効率的な組織のあり方や、職員研修も幅広く研鑽が出来る様、機会を与え勉強させたい。

二、災害予防災の村づくりについて

(問) 台風等による各種災害件数は増加し、局所的に大型化している。青木村では、昭和

三十四年の大災害や、平成二十二年七月の洞地区の災害等は記憶に新しい。本年も集中豪雨による災害も発生している。村民への精度の高い情報発信と対策について

村長答弁

九月十六日の台風で減災防災の必要性を認識した。精度の高い雨量計も村内三ヶ所に設置して、細かな情報の提供も出来た。更に増設し防災に努めたい。

(問) 村内に河川と百六の橋がある。管理状況について

建設産業課長答弁

河川の管理は県が主体である。連携しすすめたい。橋は危険度を判断して順次対策をすすめたい。

(問) 総合的なハザードマップの作成と災害訓練の実施

総務課長答弁

青木村のハザードマップは平成十九年に作成し配布した。県の協力を得て、更に充実したハザードマップを配布したい。

村長答弁

訓練は、保育園、小・中学校ラポートでは実施しているが、一般村民を対象とした訓練は少ない。前向きに実施したい。

(問) 消防団員の確保と、特に女性団員の加入について

村長答弁

真剣に考えている。魅力ある消防団づくりと、女性の加入に期待している。

三、高齢者福祉について

(問) 高齢者福祉は、今後の重要事項だ。介護保険も五期目となる。内容も変わりつつあるが

住民福祉課長答弁

高齢化の進行とともに、施設への入所者が増加している。介護の重度化や、認知症も増加し、更に細かなサービスが求められる。六期目の計画に向け調査を実施し対応したい。

(問) グループホームや、支援ハウスの利用が増えると思うが

住民福祉課長答弁

利用の需給状況や地域支援え合い事業も考え対応したい。

村長答弁

ラポートの増床については、慎重に考えている。働く人の給料も安く人の確保が大変だ。

(問) 買物弱者対策として移動購買車の運行は

建設産業課長答弁

村内の状況検討や、支え合い事業も考えたい。

山本 悟議員

- 一、二十六年度予算編成の基本理念と個性について
- 二、自治基本条例の制定について
- 三、上田市の「運賃低減バス実証運行」に対する村の対応について

四、全国村長サミットについて



運賃低減バスの運行の考えは…(当郷バス停)

一、二十六年度予算編成の基本理念と個性について

(問) 村長就任後初の予算編成について、積極、緊縮、暫定、前年並等想定されるか

村長答弁

事業の選択だ。

(問) 総額的にはどうなる

村長答弁

収支を積み上げて結果的には前年並になってしまったと思うが、災害関連の補助金などがどうなるかにより流動的だ。

(問) 定例会冒頭挨拶で、スクラップアンドビルドの名のもと全ての事業の取捨選択を行い、ニーズ、優先度、投資効果等を踏まえた中で副村長を置かれるか、一般職の増員は

村長答弁

副村長の件も考えているが、組織の活性化がより重要だ。一般職は若干名増員する。

二、自治基本条例の制定について

(問) 住民自治に基づく自治体運営の基本原則を定めた、自治体の憲法・最高規範とも言われる。県下の制定状況は

総務課長答弁

七十七中八市町村で制定済。

(問) 本条例に対する村長の認識

本条例に対する村長の認識、制定についてのお考えは

村長答弁

村を運営する上で自己決定・責任のもと、住民自治の充実と住民の意思を反映させるための仕組と考える。反面

ほんとうに役立つのか、住民同士の対立を煽り(あお)はしないか。行政運営の妨げにならないか。議会の否定にならないか。特定の団体にコントロールされないか等危惧する。制定を公約されている長和町の動向を勉強させていたたく。

三、上田市の「運賃低減バス実証運行」に対する村の対応について

十月一日から三年限りの割安運賃の試験運行が始まった。千曲バスの青木線では市の最終バス停「出浦上町」迄三百円、「当郷」迄乗ると五百八十円。

(問) 上田市等からの事前説明は。今から相乗りできないか

総務課長答弁

二月に市の職員が、四月に千曲バスが各々来村され伺った。

村長答弁

新聞報道で村長就任後知った。上田市も国交省やタクシー業界との折衝等試行錯誤の末、実証運行にこぎつけたと

のこと。上田広域全体の課題とする暇はなかったが、当村から参加要請すれば快諾していただける旨、母袋市長に御了解いただいている。

四、全国村長サミットについて

(問) 十一月十五日・十六日、木島平村主催、県、農水・国交省、全国町村会等の後援で開催された。目的は、農山漁村の文化や自然を新たな視点でとらえ見詰め直し、情報交換と連携を深め全国民にアピールするためとしている。日程、出席範囲、感想等伺う

村長答弁

教育長に代理出席させたが、報告、資料等を見聞する中で欲しいのは、合併しない村がいかに頑張っているかと言うような声だ。本村開催は懐疑的。

教育長答弁

初日は『むら』の生業(なりわい)と自信を持つとう」と言うフォーラムと交流会。二日目は記念講演と分科会。感じたことは人がキーワードで有り、一層の充実のためには悩みや課題解決の取り組みが必要だ。

沓掛 計三議員

- 一、国道一四三号青木峠トンネル建設促進の今後の活動について
- 二、米の生産調整廃止等国の政策転換に伴う農業への影響について
- 三、平成二十六年度予算編成方針について

道の駅から見た子檀嶺岳



一、国道一四三号青木峠トンネル建設促進の今後の活動について

十一月に「国道一四三号青木峠新トンネル建設促進村民会議」が設立されました。長年の懸案事項として要望してきた経過はありましたが進展がなかったのが現状です。

この事業は、今後青木村が存続し発展するためにも、この村民会議の活動に期待するものであります。

(問) この会議が実際にどのような活動していくのか、又今後の活動経費どの程度と考えているのか

村長答弁

今後の活動については、関係市町村や行政機関との役割分担及び連携を進めていきます。村民会議については国、県等要望活動に参加していただき、住民の要望として受けていただけるよう活動していきたいと考えています。

活動経費については村の経費で進め、今後必要な時期には関係団体をお願いする。**(問)** 村民会議を設立したことに対して、村民や行政機関などの反応について

村長答弁

この報道により関係行政機

関から、この事業に対する理解はいただいております、村民からも高い期待を持たれていてと感じています。今後は多くの人にこの事業の必要性をお願いしていきます。

二、米の生産調整廃止等国の政策転換に伴う農業への影響について

国では四十年間続いた減反政策の廃止をTPPにも関連し大きな政策転換を進めていますが、この政策が中山間地での農業現場で受け入れられるか心配であります。

(問) 直接支払交付金が現在の半分になるが、農家への影響について

建設産業課長答弁

十アール当たり半額の七千五百円になります。今後地域の担い手として経営規模拡大し、経営を安定させていくためには打撃になり、担い手農家が育たない懸念があります。

(問) 生産調整廃止による、村の集団転作との関連について

建設産業課長答弁

湿田等の問題もあり維持できるか心配であります。又、この制度により米価の下落を防ぐためにも生産地域のすみ分けが必要となります。

(問) 農地の荒廃化への影響について

建設産業課長答弁

農地の荒廃化の心配がないわけでもない。ただ新しく農業・農村の多面的機能に着目した「日本型直接支払制度」が来年度より具体化される。この事業は村全体で取り組む考えであります。

(問) 今後の水田経営の見通しについて

建設産業課長答弁

生産調整廃止に伴う直接支払交付金の削減から廃止の影響は大きく、今後については、新たに創設される新制度を活用するとともに、当面は今までの通り集団転作を維持し、産地交付金を活用した転作物を推進していくべきと考えています。

三、平成二十六年度予算編成方針について

(問) 国の予算が厳しい中、村の予算をどのように編成していくのか

村長答弁

歳入の主たる財源である交付税については国の動向を注視していきます。歳出については、ソフト事業を主に村の将来を見据えて中長期的な視点で編成していきます

居鶴 貞美議員

- 一、平成二十六年予算編成の方針等について
- 二、産業振興について
- 三、簡易水道について

産業振興（一次産業～三次産業）



白川ダム



北村村政がスタートし、七ヶ月が経過致しました。新しい施策を実施され、「元気に豊かな 日本一住みたい」村づくりの公約の実現の取り組みに敬意を表します。間もなく、平成二十六年度を迎える時期となりました。

一、平成二十六年予算編成の方針等について

（問）同様の質問が三名の議員からあり、重複を避けて行います。地方交付税が四十七・三%を占める事については

村長答弁

村にとって半分の財源であり、青木村の大事な債務であると認識している。

（問）歳計外現金と基金の運用については

会計管理者答弁

公金は、すべて公金管理委員会の基準の制定に基づき、運用方針を決めている。定期性預金での運用は、ペイオフの対象で相殺額として信州うへだ農協へ三億五千万円預け入れ可能、公金管理委員会で各金融機関の信用枠、十億円が可能としている。歳計外現金は、一定額を一定期間運用することは困難なことから決済性預金としている。

（問）住宅建設事業における若

者定住促進事業の今後は

村長答弁

青木村住宅総合計画で村づくり全体の中で検討、住宅新築、改修補助制度についても、総合的に前向きに考えていく。

（問）ふるさと納税制度活用による、「ふるさと寄附金」で阿南町は一億円を突破し、地元産のお米の調達が困難で中止された。今後のPR等活動は

村長答弁

試行錯誤で始めた。課題もあるが、阿南町のPRの例を参考に機会あるごとにPRし知恵をしっかりと効率的に行なう。

二、産業振興について

（問）商工業者に対する商工会への主なる事業と現状認識は

村長答弁

大変さを感じている。工業製品を役場内に展示設置。地域消費券を活用。埼玉県の久慈市の商工部会と取引を開始した。

（問）農業振興に対しては

建設産業課長答弁

アグリサポート制度はJA信州うへだファームが実施している。主にりんご農家で利用されている。新規就農制度についてはマンパワーがない。

改良普及センターと連携し受入先の対応を行なっている

（問）林業に対する事業と現状の認識はどうか

村長答弁

村の八十%を占めており、山を大事にしなければならぬ。松くい虫をどう防除していくかが課題である。

建設産業課長答弁

美しい森林、里山を防災の観点からも、里山の整備を積極的に進めていく。

三、簡易水道について

（問）平成二十五年から五年で行なわれる、簡易水道整備事業の状況は

住民福祉課長答弁

総工費七億三千万円で、市ノ沢浄水場に二億六千万円が予定されている。今年度は一億二千二百万円で調査・設計が始まり、白川水源導水管布設等行なっていく。

（問）老朽管更新事業における、今後の布設計画は

住民福祉課長答弁

昭和三十七年の台帳図面を基に更新。平成五年から十二年の下水道の布設に伴い布設替えが行なわれた。それ以外については、中長期的に模索していく。

川崎 攻議員

一、福祉問題について



この冬、福祉灯油の実現を

一、福祉問題について

(問) 四月から消費税増税により八%になり、一番影響を受けるのが生活弱者、高齢者、私達村民だ。又、医療改悪、年金切り下げ、子育て問題での制度改悪が続いているが村長の考えは

村長答弁

今回の三%アップについては、いろいろ議論があるが、全国の町村長会議で慎重な意見を求めている。低所得者に対して十分な措置をとることを前提にして、三%アップは社会保障を重点にしているの期待している部分もある。

(問) 住民福祉課長はどう思っているか

住民福祉課長答弁

高齢者の事だと思いが、厳しい状況が続くと思うが、村として行政サービスが出来れば良いと思う

(問) 厳しい冬を迎え、原油価格の高騰で、低所得者・障害者・母子家庭の経済負担は大変だ。村で福祉灯油を実現してほしい。長野県下で(一昨年から昨年の四月まで)岡谷市、諏訪市、茅野市、富士見町、原村、阿智村、佐久市、飯綱町で一世帯五千円から一万円の「福祉灯油」が実現

されている。村でも様々な支援、助成が行なわれているが、ぜひ実現を図ってほしい

村長答弁

この寒さ、身にしみて分る。過去を調べて見た。この時期、灯油が高騰し一年間実施してきた時もあった。上小地区調査したが支給はなく今回はできない。

(問) 生活弱者をなくす努力をしてほしい

村長答弁

村でプレミアム消費券十%補助している、この券を活用してもらいたい。きめ細かい事については区長、民生委員、地域支え合で行ってほしい。

(問) プレミアム消費券を買えない人はいる、どうするのか

村長答弁

社会福祉協議会に相談してほしい。

(問) 村長の福祉政策の一番重点は何か

村長答弁

むずかしい質問だが弱者問題だ。

(問) 買い物難民をなくすため、移動購買車運行の補助制度の実施をしてほしい

村長答弁

この問題はニワトリか卵との痛し痒しの感がある。もう

少し様子をみたい。

(問) デマンド交通の土・日運行を行ってほしいが

総務課長答弁

現状は行っていないが、今後必要性があれば交通会議で図っていききたい。

(問) インフルエンザ予防注射支援について、この制度について知らない人多すぎるのではないか(五百円で受けられる)平成二十四年受診した人は四八・五%だ

地域包括支援センター長答弁

希望者には受けていただけるように体制を整えています。

(問) 人間ドックの窓口無料化は鹿教湯病院のみだが、他の病院で受診しても、窓口無料化を図ってほしい

住民福祉課長答弁

必要に応じて検討していきたい。

(問) 介護保険制度の改悪について村長の考えは

村長答弁

全国の町村長会議で介護保険の円滑を要請してきた。

片山 順雄議員

- 一、青木村の水資源について
- 二、環境保全について
- 三、観光について
- 四、タチアカネについて



浦野川

一、青木村の水資源について

(問) 青木村には水道水源保護条例はあるが、村全体の地下水、湧水、河川等の水道水以外の水に対する保全条例が必要ではないか

村長答弁

当面は村の水道水保護条例と県の水資源条例を活用していく、状況によっては更に検討。

二、環境保全について

(問) 遊休荒廃地、山林の売買が外国資本によって購入されたりしない為の条例整備が必要と思われるが

村長答弁

条例だけでは防げない為、パトロール、情報収集等が必要、条例を作るのもう少し状況を見ながら検討する。

三、観光について

(問) 観光推進協議会とサポーターズクラブの進捗状況は

村長答弁

サポーターズクラブは二ヶ月程で五百五十余名が登録された。年度内目標千人は毎日少しずつ増えているので達成出来ると思われる。これは地域消費券を積極的に使ってもらう事が目的であり、今後各種観光情報を流し継続的に行っていく、推進協議会は、農商工行政等と連携を取って周遊性、滞在性を取れるようなモデルコースを設定していくよう努めている。

(問) 観光客の受皿について

今のところ、村にはこれといった受皿が無い状況、又、体験館の整備改善、体験メニューの整備、コーディネーターの配属が必要と思われるが

村長答弁

道の駅の機能、あり方活用

等全体の改善を検討中、体験館は補助金の関係もありむずかしいところもあるがこれも検討中。

(問) 村の観光案内所について

今現在直売所と同じ事務所にいる為、直売所の職員が観光案内所の人かわからない、又不在がちで他から来た人達にはわかりずらく不便を感じている人が多勢いると聞いているが改善出来ないか

村長答弁

今の村の予算では常時一人置くのはむずかしいが、農産物直売所との連携を強化する。次年度は改善していきたい。

四、タチアカネについて

(問) タチアカネの特産品としての販売方法、PR等について村としてどうか

建設産業課長答弁

スキルアップセミナー、そばの花祭り、新そば祭り等利用し積極的にPRしていく、六次産業化への取組みもスタートしている。

五年後の減反政策への対応は荒廃地等を作付利用する計画、十八トンの収量見込みがあり問題ないと思われる。



平成二十五年 第二回臨時会

平成二十五年第二回臨時会が十一月七日招集され、慎重審議の結果原案どおり可決されました。

議案第一号

平成二十五年度(国補)青木村営プール改修工事の請負契約について

契約の方法／指名競争入札による契約

契約金額／七千三百五十万円
契約の相手方／

上田市長瀬三九一八番地

株式会社 栗木組

代表取締役 栗木悦郎

お知らせ

青木村議会・女性団体連絡会共催

第7回 村づくり懇談会

日時／2月9日(日)

午後1時30分から(1時から受付)

場所／青木村文化会館講堂

目的

住民の皆様や村の議会に対するハード・ソフト事業に対する要望を聞くだけの会ではなく、個人や団体が地域全体で物心両面において協調し融和を深め、青木村に住んで良かったと実感できる「明日の青木村のあり方」を語る会です。大勢の皆さんのご参加をお待ちしております。

議会の動き



青木村及び上田市 共有財産組合 視察研修報告

青木村及び上田市共有財産組合の議会議員十名と常設委員四名、事務局三名の十七名にて、十月三十一日と十一月一日の二日間、福島県の遠藤林業と宮城県石巻市の日本製紙へ視察研修を実施しました。

遠藤林業では遠藤専務より説明を受け、従業員約百五十名で日本一と思われる土木資材用木材の加工を主に、杭丸太や矢板を首都圏を中心に販売している。当日も東信木材センターからカラ松材の入荷があり、長野県産材は他県の材より良質で使いやすいとのこと。

震災でコンクリート製杭は破損したが、木製杭は柔軟性があり震災にも耐え、最近は見直されて需要が増えているという。

日本製紙では、工場内各所に津波の到達ラインを示す赤

い表示があり、説明の中でのスライドを見て当時の悲惨さがうかがわれました。工場内は一階部分が浸水し、電気系統はほとんどが使い物にならず、押し流された物とで壊滅状態でしたが、社長以下社員が一丸となり復興に取り組んだことで一年後再稼動できたとのことでした。

当工場へ行く途中の石巻市内は復興が進み、がれきも見当らず、街並みもきれいになり、どこを見ても津波の後を感じさせる場所はありませんでした。

木材の有効活用と困難にもめげず頑張っている方々の姿を拝見し、多く学ぶところがありました。

第五十七回町村議会 議長会全国大会

第五十七回町村議会議長全国大会が「真の分権型社会の実現を目指して」をメインテーマ

に、関係者約千七百人出席のもと十一月十三日NHKホールにおいて開催されました。

最初に「今こそ政官産学の各界各層から英知を結集し、福島第一原子力発電所事故の早期収束と東日本大震災からの一刻も早い復興を成し遂げると共に、自治能力を高め都市と農山漁村が「共生」しうる社会を強力に進めていくことが重要である」と決意をこめた宣言があり、つづいて内閣総理大臣、衆参両議院議長等の祝辞がありました。

つづいて議事に入り要望案件として東日本大震災からの復興と大規模災害対策の確立、分権型社会の実現、町村財政の強化等二十四件と北海道地区ほか八地区から基幹交通体系の整備、高速自動車道等の整備の要望九件が提案され採択されました。

引き続き、当面重要問題の解決を図るため十六項目にわたる決議案を又、「東日本大震災からの復興と大規模災害の確立に関する特別決議案」「真の分権型社会の実現に関する特別決議案」「道州制の導入に断固反対する決議案」「TPPに関する特別決議案」が満場一致で採択になりました。

大会終了後、「想定を超える災害にどう備えるか」と題し、群馬大学広域首都圏防災研究センター長、群馬大学理工学研究院教授、片田敏孝先生による特別講演が行なわれました。

総務建設産業委員会 視察研修報告

平成二十五年十一月十九日、二十日の二日間、群馬県と新潟県の四施設の視察を委員長以下五名全員と総務課長ほか総務課職員一名の参加を求め、合計七名で実施致しました。

一、群馬県利根郡川場村

(株)田園プラザ川場

利根郡の中央部に位置し、人口は四千人余りの農山村です。農業プラス観光のむらづくりに取組み、世田谷区と川場村の縁組協定十周年を迎える中で提起されました。施設全体の経営は村が出資する、第三セクター(株)田園プラザが運営。川場村が六十%、(株)世田谷川場ふるさと公社、十六・七%等九団体が出資しております。年間の来訪者は百万人に達し、関東好きな道の駅ランキングで五年連続第一位、第二位と常に上位にあります。施設はファーマーズマー

ケット、そば処、ブルーベリー館、パン工房、ミルク工房、ビール工房、ホテルSL等で、平成二十四年度の年間売上は八億五千六百万円です。地域への貢献として、①就業の場の拡大は社員二十九名、パート五十一名、②農産物の販路拡大は村内農家四百五十四軒の内、約九十三%が出荷登録があげられます。新しい所得と生きがい、兼業農家に新しい販路の創出、農地の有効活用等波及効果が生まれております。

二、新潟県見附市
水害対策と防災機能の有する公園

新潟県見附市は新潟県の中央に立置し、人口は四万二千八人の小さい方から二番目の市です。平成十六年の激甚水害を経験し、平成二十三年の激甚水害に於いて対策がいかに被害を最少限におさえました。被害額が平成十六年に百八十四億でありましたが平成二十三年に十四億と減少しました。改善策は、避難勧告・指示として、○気象会社によるピンポイント気象情報、○携帯電話から現地映像収集、○防災カメラ設置。情報の発信として、○サイレン・スピーカーの設置五十ヶ所、○携帯電話メールの情報発信、○テレビのデ



総務建設産業委員会の視察研修

ータ放送。防災訓練の実施として、○毎年、六月に訓練を実施し、市民の四分の一以上が参加。その他、遊水池の創設、災害対応管理システムの構築、豪雨災害対応ガイドブックがあげられます。

三、新潟県長岡市

長岡震災アーカイブセンター
いきおくみらい

中越大地震の記録を後世に残し、中越地震による自然災害を教訓とするものでありました。

四、新潟県上越市

中部電力(株)上越火力発電所

長野方面の電力の安定供給と二酸化炭素排出削減を目的に建設されました。今回の視察を通して、地域住民が中心となり事業運営することや課題に対し、積極的に取組み、よりよい形を求め活動する事の重要性を感じました。議会にとつて、



これからの青木村に必要なことを多く学んだ視察となりました。

社会文教委員会 視察研修

平成二十五年度の社会文教委員会の視察研修は、十一月二十六日から二十七日の日程で、愛知県心身障害者フロンティアを視察しました。

このフロンティアは心身の発達に障害のある人々が明るい幸せな生活を営むことができるように療育、医療、教育、職業訓練などを行うとともに、在宅の障害者や家族の相談や指導にも応じ、また、すべての人の願望である心身障害の原因の探究や治療と予防を図るための研究をする総合的な福祉センターとして設置されました。現在の規模は敷地面積が七十三万八千五百八十

七平方メートルで東京ドームの十五倍の広さであり、障害者の関係の施設、養護学校、病院等、施設が十以上あり全国に先駆けたフロンティアです。

平成二十五年度予算が、六十二億七千八百万円で、各施設の児童数は八百七十七名、正規職員は七百六人で合わせれば千五百人を越える大所帯です。

この中で春日台養護学校と福祉型障害児入所施設のはるひ台学園を視察しました。

春日台養護学校では、二人の教頭先生に案内をいただきました。幼稚部、小学部、高等部があつて全児童数が四百三十八人で教職員が二百一人です。ほとんどの児童が大型のスクールバス六台を使用して、自宅通学をしています。

中学部を卒業する児童は、現在全員が高等部へ入学し高等部を卒業する人達も以前より就職率も良くなり、中途で辞める人も少ないとの事です。

次に、福祉型障害入所施設のはるひ台学園を視察しました。ここでは学園長及び学園支援課長に説明と案内をしていただきました。設立直後の昭和四十四年は、二百名の定員でしたが平成十九年から順次定数を変更して、現在の定数は八十名です。

学園長以下生活支援員を含めて職員は五十九名であります。

児童と十八才以上の入所者があり、学校教育修了者が昼間は日中活動支援を、夜間は施設入所者支援を行なっています。

今回の視察研修で感じた事は、障害者の方も一生懸命学習活動等していますし、先生方も障害者ある人達に愛情を持って接している姿に視察された委員の皆さん感銘を受けました。また、案内していただいた先生、職員の方には専用の資料を作成していただき、中の施設をバスで回って細かく説明をしていただき感謝をしたいと思います。



社会文教委員会の視察研修

11月

議会日誌

- 6日／村長杯ゲートボール大会(議長)
- 6日／消防委員・消防団懇談会(総務建設産業委員)
- 7日／臨時議会
- 7日／信州ええっこ村 NPO 法人化報告会(議長)
- 10日／青木峠新トンネル建設促進青木村村民会議設立総会
- 12日／7期成同盟会県要望(議長)
- 13日／町村議会議長全国大会(議長)
- 13日／小学校バイキング給食(社会文教委員)
- 14日／五団体親睦会
- 19日～20日／総務建設産業委員会視察研修(総務建設産業委員)
- 23日／子檀嶺神社中社秋季例大祭(議長)
- 24日／商工会工業部会忘年会(議長)
- 26日／27日／社会文教委員会視察研修(社会文教委員)
- 28日～議会運営委員会(議会運営委員)
- 29日／例月監査(監査委員)

12月

- 3日／青木村ふるさと公園(仮称)建設関連事業特別委員会
- 3日～6日／12月定例議会
- 6日／羽田孜氏叙勲・上田市名誉市民受章を祝う会(議長)
- 13日／青木村ふるさと公園(仮称)建設関連事業特別委員会視察
- 17日／例月監査(監査委員)

1月

成人式
(1月2日)

- 2日／成人式
(正副議長・社会文教委員)
- 8日／議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 10日／青木村ふるさと公園(仮称)整備に係る講演会
- 12日／消防出初式(正副議長・総務建設産業委員)
- 16日／青木村ふるさと公園(仮称)建設関連事業特別委員会
- 17日／第9回長野県地方自治政策課題研修会
- 21日／議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 22日／上田地域市町村議会議員研修会
- 27日／例月監査(監査委員)
- 30日／町村議会正副議長正副常任委員長研修会(正副議長・正副委員長)

2月

今後の予定

- 4日／上田地域広域連合議会代表者会(議長)
- 6日／上田地域広域連合議会代表者会(議長)
- 9日／村づくり懇談会
- 20日／筑北村議会との研修会
- 21日／財産組合議会(財産組合議会議員)
- 24日／上田地域広域連合議会(正副議長)
- 25日／議長会定期総会(議長)
- 26日／上田地域広域連合議会(正副議長)

住民の声



交通死亡事故ゼロ

三千日達成

上田交通安全協会
青木部会長
上原 英雄

青木村では昨年十一月十九日交通死亡事故のない日が三千日になりました。村内には国道一路線、県道三路線があり、いつ重大事故が発生してもおかしくない状況ですが三千日を達成できたのは村はじめ村民、各団体、上田警察署、上田交通安全協会の皆様方のご指導、ご協力の賜物であり厚くお礼申し上げます。

村では歩道整備、歩車分離式の信号機設置など交通安全対策に取り組んでいただいています。

部会の活動では、春の交通安全運動期間中に村道停止線の白線引き、秋の運動期間中には電動バイクの安全走行講習会を実施し事故防止を呼び掛けています。小学生には自転車、安全走行を指導しています。自転車クラブを立ち上げ四月から毎日放課後安全走行、技能走行、法令の勉強を行ない交通安全子供自転車大会へ四回目的の出場をしました。また、全児童を対象に水曜クラブの自転車教室で自転車の安全な乗り方を指導しています。子供の頃から交通安全に関心をもていただくことにより大人になっても法令を守り安全運転に結びついています。

この度、死亡事故ゼロ三千日を達成した活動を認めていただき上田警察署長より十一月二十二日青木部会へ感謝状をいただきました。一月十七日には県交通安全運動推進本部長(奥知事)より青木村へ授与されました。

三千日はあくまでも通過点であり悲惨な交通事故がこれからも発生しないよう四千日を目指し活動していきたいと思えます。

赤ちゃんと高齢者の皆様、運転者及び歩行者の皆様が交通ルールとマナーを守り、皆が護る勇気と待つ勇気を持つことで事故は防げます。安全で安心して暮らせる明るい村づくりのためにご協力をお願いします。

編集後記

国内の景気も緩やかに回復傾向のことだが、まだまだ庶民の財布は重くなつてこない。TPPや中国などの対外対策も関心のひとつですが、震災の復興は進んでいるものの原発の災害は遅々として先行きが見えないのが現状です。被災された皆さんが一日でも早く復帰できることを国民の一人として願っています。

わが村では、北村村長でのスタートも早一年になろうとしています。

この一年も村内では様々な行事が行われました。十八号台風では各所に傷跡が残りましたが、それぞれの場所の改修工事も計画進行されている。

今後の目標の一四三号のトンネル化やふるさと公園(仮称)の取り組みも積極的に行われている。

十二月の定例議会は、条例の一部改正や補正予算などの案件が提出されましたが、速やかに進行されました。四名の新人議員もようやく慣れたきたせいか発言も多くなってきたようである。

議会報編集委員会

委員長 川崎 攻
副委員長 居鶴 貞美
委員 金井とも子
宮下 壽章
沓掛 計三
片山 順雄



この印刷物は、植物性インクおよび再生紙を使用しています。